

H30年度事業の概要

	事業内容	事業評価	
		結果	今後に向けて
① 糖尿病対策市町村等担当者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ○行政説明（県糖尿病対策の取組、腎症重症化予防プログラム） ○市町村における取組事例の報告（大田市、邑南町） ○研修会「糖尿病重症化予防対策の重要性と保健指導のポイント」（NPO法人島根糖尿病療養支援機構 並河理事長、田中副理事長） ○意見交換（全体） 	<ul style="list-style-type: none"> ○13市町村が参加し参加率は68.4% ○満足度は高かったが（90.9%）、内容が盛り沢山で時間不足となり意見交換が不十分だった。 ○事前に市町村の取組状況等把握に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望に応じて次年度以降も継続実施予定であるが、開催時期は市町村が参加しやすい配慮が必要。 ○全市町村から参加出来るような開催方法の工夫、また国保担当課からの参加に向けた更なる働きかけが必要。
② 中堅期保健師等人材育成研修	<ul style="list-style-type: none"> ○集合研修（3回） 【第1回】講義及び演習 「地域診断に基づくPDCAサイクルの実際（育成トレーナー永江先生）」 「データ分析から施策化へ（ヘルスサイエンスセンター島根大城次長）」 【第2回】グループワークと講義 「保健活動の評価について～基本的な考え方・評価方法・実際（永江先生）」 【第3回】まとめと発表 ○個別指導：保健所単位で市町村を参集し、受講者を中心とした個別指導（助言者：永江先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村からの受講者は3市5名であり、特に町村からの参加が難しかった。 ○個別指導の併用で集合研修で補完できない助言を実施した。 ○参加者からは「様式の意味を理解したり、表現することが難しかった」「人への伝え方や業務のまとめ方を学ぶことが出来た」との意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に応じた現状分析から政策へつなげる示し方、全体への波及効果を意識づけることが必要。 ○中堅期保健師の全体的な底上げが必要であり、今後先進地（静岡県）の様子も参考にしながらあり方を検討予定。
③ 糖尿病腎症重症化予防実践者育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病腎症重症化予防実践者育成講座実施 講演①：糖尿病腎症の病態と治療について 講演②：保健指導のあり方～特に食事指導について 症例検討～基本アセスメントの視点及び意見交換等 ※東部（出雲）：12月23日（78人）/ 西部（浜田）：1月21日（83人） ○育成講座の内容をまとめた成果物作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○多機関・多職種の受講があり、事前事後でアンケート実施し、事業評価や理解度促進等に努めた。 ○「詳細まで時間をかけて聞きたかった」「スピードが速く理解不十分だった」との声も多く、情報量が多かった。また、職種や経験年数で理解度や困難さに差が生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対象や目的を明確化し、従事状況や職種を考慮した実施方法・内容の検討が必要。また、市町村課題に応じた、個別実践的な指導についても併せて検討予定。 ○知識定着に向けては継続した学習の場が重要であり、経年的な実施計画や目的の共有が必要。
④ データによる健康実態の分析検討、国保保健事業の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ○「KDB（国保データベース）システム」及び「Focus（健康医療情報等分析）システム等」を活用し、島大地域包括ケア研究センターと共同研究による「健診・保健指導」「重症化予防の取組実施」を重点とした分析・検討 ○国保及び協会けんぽ特定健診データを集計・分析、及び健診結果をまとめた集計表（新版）の検討 ○国保保健事業実態把握及び市町村ヒアリング（4市7町） ○データヘルス推進にかかる研修会開催：2月22日 PDCAサイクルを踏まえた保健事業の評価（国立保健医療科学院 横山先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ○協会けんぽを加えたデータ分析が可能となり、働き盛り世代を含めた実態把握が可能となった（今後、地図化による見える化予定） ○関係機関を含めた分析検討は進行中。実態の見える化や意見交換は次年度以降実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種分析結果を用いた地区毎の意見交換会が必要。 ○協会けんぽを加えたデータ分析事業は継続実施とし、結果や活用方法について関係機関との意見交換が必要。 ○健診結果をまとめた集計表（新版）の運用に向けた調整、利活用研修が必要。
⑤ 地域の実情に即した重症化予防プログラムの取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ○健診・医療情報等横断的な経年データ抽出（市町村データヘルス計画や県計画等の指標参考、及びデータ分析検討会開催） ○データ分析、検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村への個別支援に向けた実態把握としてデータ分析事業に取り組み、産業医科大学等統計的知見からの助言を得ながら抽出実施まで完了、詳細な分析は次年度以降実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○抽出データを用いた分析実施が必要。 ○分析結果より、継続的指標として抽出・評価が必要な項目について検討が必要。 ○分析結果を関係者で共有し、地域・課題毎の実態の見える化、施策検討を行うことが必要。